

能登町立鶴川小学校 令和3年度学校評価 評価資料 教員等アンケート

中間評価(7月)

●「R3年度 第1回学校評価自己評価」のための評価資料①(アンケート)

	内容	評価	評価方法・指標	取り組み内容等	今後に向けて(成果・課題)
1	ICTの効果的な活用と板書のバランスを考え、わかりやすい授業に努めている。	AB 100 (%)	●活用頻度 A:ほぼ毎時間 B:ほぼ毎日 C:特定の教科のみ D:あまり活用していない	活用方法[教科:活用場面) ・教科(すべての教科で) ・学習過程[つかむ・考える・深める・まとめる) ・Jボード、クラスルーム・写真・インターネット Forms スライド 動画	◎タブレットを活用することで、児童の意欲が高まる。ノートには自分の考えを書けない子も、タブレットを用いると書けることがある。 ◎自分自身も児童も「まずは使ってみる!」をテーマにchromebookを使う機会が増えたことでわかったことがたくさんあった。 ◎毎時間、ICTを活用して授業を行った。 ◎児童自身もタブレットパソコンを活用し、図画工作・生活科・図工・体育などで活用した。そのため、児童はタブレットパソコンを道具として、利用していた。 △まだ操作に不慣れなこともあり、授業の流れがゆっくりとなり、授業が目指していたところまで終わらないことがある。 ・授業の中で、大型モニターとchromebook、既習掲示、黒板やノートの使い分けをしっかりとる。 ・説明をする力をつけさせたい場面は必ず板書し、ノートに書かせるなど使い分けていく。 ・今後、国語科や算数科において、児童の活用方法を考えていく。
2	漢字コンテストで目標通過率(90%以上)を達成できている。	AB 94 (%)	合格点(90点)達成率 A:90%以上 B:80%以上 90%未満 C:70%以上 80%未満 D:70%未満	コンテストに向けての取り組みせ方 1回目…力試しでリハーサル問題をとく。 2回目以降…大問ごとに区切ったミニプリントを用いて練習。 ・間違えたものを繰り返し練習させる。 ・直しの徹底	◎校内コンテストは児童にとって達成感が味わえるよい取組になっている。 ◎目標点数を決め、継続的な取り組みができた。 ・漢字を覚えていないわけではなく、文の中での意味が分からない・意識していないために間違えている児童が多い。漢字に意味があることを意識させていく。 ・複数の読み方がある漢字、同じ読み方の漢字に課題がある。 ・100点の児童が3人だったので、2学期には100点の児童数を増やしたい。そのために、勤堂タイムを利用した漢字小テストを実施する。
3	計算コンテストで目標通過率(90%以上)を達成できている。	AB 100 (%)	合格点(90点)達成率 A:90%以上 B:80%以上 90%未満 C:70%以上 80%未満 D:70%未満	コンテストに向けての取り組みせ方 1回目…力試しでリハーサル問題をとく。 2回目以降…大問ごとに区切ったミニプリントを用いて練習。 ・間違えたものを繰り返し練習させる。 ・直しの徹底 ・間違いの多いものを取り上げて「きらきら」で指導	◎基本の問題を素早く解く練習になっている。 ◎学期末に行うことで、忘れかけているところを再度集中して練習できている。 ◎目標点数を決め、継続的な取り組みができた。 ◎くり上がり、くり下がりの計算ミスが減った。 △時刻と時間(○分後、○分前)長さの単位に課題がある。 ・学習したことを忘れる児童が多いので、勤堂タイムや家庭学習で繰り返し指導を行う。
4	家庭学習の内容や方法等具体的に指導し、家庭学習の定着に努めている。 *1年:20分、2年:30分、3年:40分、4年:50分 5年:60分、6年:70分	AB 100 (%)	学年目標時間達成率 A:90%以上 B:80%以上 90%未満 C:70%以上 80%未満 D:70%未満	家庭学習週間の各学年の目標時間達成 ・自学の進め方について指導を行っている。また、友だちの自学ノートをいつでも見ることができるようにしている。 ・基礎基本、授業の復習を中心に家庭学習を出している。	◎家庭学習強化週間は児童の意識が高く、集中して家庭学習に取り組んでいる。 ◎ドリルの直しがあるところに付箋を貼って、直しをしっかりとさせた。徐々に直しをする習慣が身についてきた。 △その他の期間については、テレビを見ながらだらだら取り組む児童も半数ほどいる様子。 ・宿題直しを確実に学校で行い、基本的内容の定着と家庭学習に取り組みやすくしていく。 ・2学期は、家庭学習の内容の充実を図りたい。
5	「気持ちの良い挨拶」の習慣が身につくように、肯定評価をしている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのようなことを肯定評価をしたか ・声の大きさ ・相手を見て(目線) ・気持ちを込めて(表情など) ・語先後礼 ・自分から	◎毎日認める言葉をかけることで、ほめられている友だちをまねする子が出てきたり、習慣化してきたりしている。 ◎あいさつ運動であいさつが良かった人として、3年生の児童が紹介されることが多く、児童の意欲にもつながった。 ◎他の先生方が褒めていたことを伝えることで意欲が高まった。 △決められた場所以外、学校外でのあいさつは恥ずかしがったり、どのような挨拶をすればよいか分かっていないことがあるので、指導をしていきたい。 △来校者や町で会う人へのあいさつ ・肯定評価を行っているが、声のはりが全体的に少ないので、2学期は1学期以上に肯定評価を頻繁に行いたい。

6	勉強や行事等。各自に目標を持たせて、粘り強く取り組みさせている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	個に合った目標の設定や児童の達成状況 ・活動前に目標設定(練習の様子などをふまえて自分なりの目標をたてさせる) ・声掛けしながら目標を意識させ、活動後にはふり返る時間をとる。 ・達成するために必要なことを確認しながら進める。	◎目標を立てっぱなしにならないよう、意識させる声掛けをすることが有効だった。 ◎めあてカードに書いて、掲示することで意識づけができた。 △周りと比べて自分ができていないと判断し、消極的になってしまう子もいる。前向きに取り組めるように、その子に合わせた声掛けを考えていきたい。 △目標の設定が難しい児童への声かけ ・1学期の目当ては、抽象的な目標となったので、本人が取り組みやすい目標を設定する。また、目標の確認も行いたい。 ・2学期は、文化的行事と体育的行事があるので、目標を設定し、児童が満足できるように取り組む。
7	相手の気持ちを考えた思いやりの心を育む取り組みをしている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	学級活動での取り組み内容 ・毎日帰りの会で、認め合いの時間をとる。 ・ペアやグループで子ども同士が関わり合う機会をつくり、よいところを認める。 ・付箋に書く。	◎「○○さんにはこんないいところがある」と自然に言ってくれる児童が出てきた。 ◎児童からの相談を詳しく聞き、その場面をもう一度行い、相手の思いを確認しながら、児童自身の言動について振り返りをさせた。「どうすればよかったのか。」「これからどうするか。」を児童自身に考えさせた。そして、わかまりがないかを確認した。 ◎自分の名前が書かれている付箋を見つけて嬉しそうに話してくる児童が増えた。 ◎友だちの書いた内容を参考に書く児童が増えた。 △自分の好き嫌いで、相手によって行動をかえるところが見られる。 △取り組みのはじめと比べて、意欲が少し低下した。
8	児童は、友達と助け合いながら仲良く学校生活を送っている。	AB 86 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのような場面でそう感じたか ・授業中…困っている子を助けようとしている。 ・行事等の活動中…高学年として低学年に教えようとしている。 ・児童や保護者との面談から…友だちに教えられて嬉しいと言う子が多い。 ・生活ノートや作文から	◎友だちとの関係について気になることはこまめに相談してくれる。1つ1つ気持ちをていねいに聴き対応していききたい。 ◎困っている児童への声かけがやさしい言葉使いになった。 ◎自分の意見を主張するだけでなく、友だちの意見を聞き入れる児童が増えた。 ◎授業において、ペア活動やグループ活動を多く取り入れることにより、助け合いの姿が見られた。 △相手によってペア・グループ活動が仲良く進められないことがあった。誰とでも協力できるよう指導していきたい。 ・休み時間では、助け合うために必要な基礎的な経験が不足している。ようやく学習規律が身につけてきたので、今後、助け合うことの大切さを実感できる活動を行う。
9	家庭と連携し基本的な生活習慣(早寝早起き歯磨き)の形成を図っている。	AB 50 (%)	◇生活リズムアンケート(目標就寝時間達成) A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学級での指導内容や実態把握の仕方等 ・気になる児童には、朝の様子を見て家庭での過ごし方について話している。 ・朝の会、学級懇談で指導	◎気になる児童の様子は話をきくことができていく。 ◎放課後の過ごし方を相談し、就寝時刻が改善された子がいる。 ◎児童と保護者の双方から話を聞くことで、実態把握ができた。 △就寝時間が遅く、授業中に集中できない、眠そうにすることがある子もいる。 ・生活リズムアンケートで前回との比較を行ったり、日常的にも話を聞いていく。 ・睡眠の大切さの指導を学級活動で行う。
10	家庭と連携し健康な食生活(朝ごはん・好き嫌いなし)の充実を図っている。	AB 75 (%)	◇生活リズムアンケート(朝ご飯) A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学級での指導内容や実態把握の仕方等 ・朝の会、学級懇談で指導	◎児童と保護者の双方から話を聞くことで、実態把握ができた。 △ご飯(特に朝)の量が少ない子が多い。お家の方も心配され、給食の様子を尋ねてくることがあったので、家庭との連絡を続けていく。 △生活リズムアンケートで前回との比較を行ったり、日常的にも話を聞いていく。 ・3つの食品の大切さを指導する学級活動を行う。
11	ゲームの時間やネット使用の約束など家庭と連携し、指導を行っている。	AB 40 (%)	◇生活リズムアンケート(ゲーム・インターネット視聴2時間以内) A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学級での指導内容や実態把握の仕方等 ・アンケート結果を児童にも示して、ゲームなどの使い過ぎによってどんな悪影響があるのか指導した。 ・特に休み明けは話をするなかでゲームの使用時間を把握するようにしている。	◎アンケート結果を示すことは有効だった。 ◎家庭でルールを決めて、守れるように工夫されているお家がある。 ◎家庭のルールをしっかり作って守っている家庭が増えた。 △メディアの合計時間が2時間以上の児童が多い。 △家庭でのルールを守りきれないことがある。(家にいるとどうしてもゲームに頼ってしまう) ・ゲームの時間を守っているようであるが、ゲーム時間が長い児童もいるので、日常的に言葉がけを行う。
12	体力アップ1校1プランやスポチャレ等による体力向上の取り組みを計画的に行っている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	学級での体力向上の取り組み内容 ・準備運動の一つとしてスポチャレに取り組んでいる。 ・体育では全員の活動時間を増やせるようルール作りを考えている。	◎スポチャレは目標をたてて取り組むことができ、児童がとても意欲的。 ◎ボールを投げる動作が少しずつ身につけてきた。 △休み時間、タブレット使用によって体を動かして遊ぶ子が少し減った。 △スポチャレの取り組み少し少なかった。

13	児童理解の会での共通理解や共通指導を徹底し、児童のより良い人間関係の構築に努めている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	・毎月、担当学級の児童について共通理解を図る。	◎先生方が児童の細かいところまで記録に残してくださっている。 ◎児童理解の会で、自分の学級以外の子の様子も知ることができている。 ◎担任以外の先生からの情報やアドバイスも児童理解にとっても役立っている。 ・2学期も継続して取り組む。 ・早急に対応しなくてはいけない内容については、すぐに共通理解を行う。
14	学習面において、個に応じた指導を行っている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	個別指導を行った教科・内容・時間帯 ・国語(漢字 ローマ字 主語述語) ・算数(計算 時ごとと時間 長さ) ・登校後～朝の会 ・帰りの会後～下校	◎個別指導によって、授業だけでは理解できないところを補っている。 ◎個別指導によって、児童から質問することが増えた。 △できるだけ休み時間は確保できるようにしているが、追いつかないこともある。 ・2学期も継続して取り組む。
15	子どもの特性を理解し、困りごとを解決できるように支援している。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのような困りごとを解決したか ・学習面…分からないところを個別に教える ・友達関係…嫌な時の伝え方を指導してできるようになっている。 遊びのルール ・家族のこと…困っていることの話聴くようにしている。 ・その他…自分の性格など直したいところと一緒に考えている。	◎困っていることを相談しやすいよう、声を掛けるなどしている。 ◎児童から訴えがあった場合は、なるべくすぐに対応し、解決できた。 △目が届き切らなかったり解決しきれなかったりして、お家の方に相談していることもあるので、家庭との連絡もこまめにとっていききたい。 △自分から積極的に相談できない子も気をつけてみていきたい。 △大人がいない休み時間のトラブルが多く、状況把握が難しく、主張にズレが生じた時の対応。 ・2学期以降も困り事を訴えやすい環境を作り、困り事を解決していく。
16	子どもの自己肯定感を高めるための取り組みや肯定評価に努めている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	学級や児童会等の取り組み ・学級…帰りの会での認め合いの時間、細かなことでも認める 声掛け ・児童会…ありがどうの木、スポーツふれあいタイム	◎認め合いの掲示は有効だった。うれしそうに見ている子が多い。 ◎全体の場で褒めたり、ノートコメントで褒めたり、その子や場面に合わせて褒め方を考えている。 ◎教師から児童一人一人に定期的を書くことで「ありがどうの木」の前に行く児童が増えた。 ◎友だちから言われた事を嬉しそうに話してくる児童が増えた。 ◎自分では気がつかない良さを知ることができた。 △褒めても素直に受け取れない子がいる。粘り強く肯定的な声掛けを続けていきたい。 ・2学期以降も自己肯定感や自己有与感を高める活動を行う。
17	避難訓練を通して非常災害発生時の避難行動の仕方を身につけさせている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	避難訓練 ・火災 ・不審者 ・シェイクアウト	◎毎年繰り返すことで、どんな行動をとったらよいのか身に付けることができています。 ◎振り返りシートを有効活用できた。 ◎「おかしもち」の行動が身につけている。 ◎事前指導を行い、実施することができた。シェイクアウトでは、児童自ら静かに行動ができた。 ・2年生は、初めて行う活動であると捉え、事前指導をさらに丁寧に行う。
18	保護者が連絡、相談したことに対して、誠意を持って対応している。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのような相談ごとがあったか ・学習面…宿題が分からず時間がかかることがある。 ・友達関係…嫌なことをされている。席順が心配。 ・家族のこと	◎対応内容を電話や授業参観に来てくださったときに伝えた。その後の様子を連絡帳などで聴き、改善に努めた。 ◎連絡帳や電話、学級懇談会などで保護者の思いを受け入れ、自分の思いも伝えることができた。 ・保護者からの相談の真摯に受け止め、対応することができた。 ・今後も継続して取り組む。
19	学校は、施設・設備の整備に努め、学校安全や環境美化に努めている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	交通安全教室・安全点検・自問清掃等	◎校務員やスクールサポートが環境整備をしてくれるので、助かっている。 ◎それぞれの先生方が使用した教室や用具をしっかり整備している。 △夏場はクモの巣が多くなり、掃除人数が少ないので掃除がなかなか追いつかない。 ・今後も日常的に安全についてのアンテナを高めていく。
20	「報告・連絡・相談」を徹底を図り、協働的に課題解決に取り組んでいる。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	報告・連絡・相談の内容 ・保護者から相談があったこと ・気になる児童について	◎管理職や他の先生方と情報交換をスムーズに行い、今後の対応について確認することができた。 ・今後も早めの「ほう・れん・そう」を行う。
21	学校便りや学年便り、ホームページなどを通じて、学校での教育活動の様子をわかりやすく伝えている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	おたよりやホームページにのせた内容 ・学習の内容 ・活動の様子[学習や行事等] ・児童の作品 ・保護者へのお願い	◎定期的に発行できた。 △児童の作品の紹介が少なかった。 ・児童が「これをお家の人に伝えたい」と言ってくることもあるので、それも盛り込んで週1回程度学級だよりを発行していきたい。

22	家庭読書週間、読書紹介カードなど家庭と連携しながら読書活動を推進している。 (目標1ヶ月10冊)以上	AB 100 (%)	4月～7月までの1ヶ月の平均読書冊数 A 10冊以上 B 7冊～9冊 C 5冊～7冊 D 0～4冊	◎国語の学習とも絡めて、定期的に本の紹介をした。興味をもって読んでくれた。自分では選ばない本を読む機会になった。 ◎学級文庫の紹介や入れ替えをこまめに行ったことで、新しい本に出会ったり、興味を持つ児童が増えたりした。 △個人差が大きい。 ・読書の声かけを行う。 ・個人差があるので、本の貸し出しの確認を行う。	
23	保護者や地域と連携を図り、PTA活動や教育活動を行っている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	どのようなことで連携が図れたか ・学校行事(運動会) ・PTA委員会(給食試食会 奉仕作業 広報1号) ・防犯パトロール ・保護者には普段の連絡や学級だよりを通じて学校での様子やお願いを伝え連携した。	◎保護者とお便りや当日の日程について確認しながら、進めることができた。 △メールのやりとりにも不具合があった。
24	地域の素材をもとに学習活動を行ったり、地域の人材を活用したりして「ふるさと教育」を積極的に展開している。	AB 60 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	活用した地域素材〔人・もの・自然〕 ・人(公民館、洲崎石油、洲崎金物店、牧具服店、牧接骨院、電遊館かみに、鶴野酒造) ・もの(流木 シーグラス) ・自然(見下ろしの浜・西出牧場) ・施設(水産総合センター、グリーンセンター、矢波浄水場、能登少年自然の家、満天星、中央図書館、真脇縄文館)	・1学期の児童の関心、疑問をもとに夏休み中に計画を立て、総合で地域の方や施設を活用した学習を行った。
25	服務規律を遵守し児童や保護者・地域に信頼されるように努めている。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった		・常に教育公務員であるという自覚をもって過ごす。
26	校内研修や授業研究などを通して授業力の向上を図っている。	AB 83 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	授業の中で意識、改善したこと ・児童の実態、前時の様子などから授業を考えること ・個人差に対応しながらバランスをとって授業を進めること ・全員が授業に参加できるようにすること(雰囲気づくりと自信をもたせる) ・課題解決のための見通しの持たせ方(既習を意識)	◎学級の子どもの特性などが分かるようになってきて、それを意識した授業づくりをするように心がけている。 ◎既習を使ってできないかと既習とのつながりを意識する児童が増えた。 △どの既習を使えばできそうか見当がつかない児童もいる。 △個人差に対応しながら、全員が積極的に授業に参加できるようにするのが難しいことがある。
27	校務分掌の提案など、本質・再構築・変容を意識して取り組んでいる。	AB 100 (%)	A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった	変容を意識した提案や取り組み ・児童会「ありがとうの木」の取組では、代表委員児童に話し合わせ、掲示を工夫した。 ・週予定表の一言欄の取りやめ ・運動会の提案 ・体力アップ1校1プラン ・図書館指導員との連携 ・前期プラン作成	◎他の先生方と相談しながら、よりよいものになるよう提案できた。 △図書館指導員の方との連携がうまくいかなかったことがあった。(シャッフル読み聞かせ) ・2学期は学校行事の担当もあるので、目的を確認し直し、児童の活躍の場を増やすことを目指して計画していく。
28	業務改善に努め、最終退校時間(19時)を守るようにしている。	AB 83 (%)	A できた B ほぼできた C あまりできなかった D できなかった	時間を要した業務内容 ・教材研究 ・校務分掌 ・研究にかかる資料	◎週単位で計画を立てて、優先順位を立てて取り組んでいる。 △学校では校務、パソコン作業を優先し、丸付け・教材研究は持ち帰ることも多い。 △この授業時数で、学力向上、効果的なICTの活用、やるが多すぎて手が回らない。 ・メ切に余裕を持ってすすめる。